

# 石動山で歴史文化学ぶ

## 奥能登塾、初の現地研修

能登の地域振興を探る「奥能登塾」(北国新聞社後援)は26日、中能登町の国史跡石動山で初めての現地研修を行い、石川、富山県内の31人が能登の歴史文化と石動山の関わりについて学んだ。

能登空港ターミナルビルからバスで巡る研修とな

り、能登の民俗に詳しい真宗大谷派西勝寺(珠洲市)住職の西山郷史さん(70)が講師を務めた。

石動山(天平寺)は中世の最盛期には360坊、衆徒3千人を擁していたと伝わる。一行は石動山資料館や、中心的な坊で2002年に復元された大宮坊などを訪れた。

西山さんは、石動山の僧が能登を巡って無病息災の祈禱を行ったり、特製の薬を施したり



大宮坊を見学する参加者  
—中能登町の石動山

石川北

して各地に影響を与えてきたことを説明した。「能登はやさしや土までも」が初めて文献に登場したのは、石動山に参詣した加賀藩士の紀行文だったことも紹介した。

奥能登塾は、まちおこしに取り組む有志や県の呼び掛けで6月に発足した。次回講座は11月中を予定している。問い合わせは奥能登総合事務所企画振興課まで。